

■ マリントウンMICEエリアデザインコンセプトと空間形成の考え方（素案） 意見募集に対する意見と意見に対する考え方（対応方針）

No.	意見の項目	意見の内容	意見に対する考え方（対応方針）
1	事業に係る広報	進行状況や具体的計画について、住民への広報を年度毎に行ってほしい	⇒ 事業の進捗状況については、定期的に住民や県民向けに広報する予定です。
2	ホテル・商業施設の設置	既存集合住宅地の周囲に高い建物が建ってしまうと海が見られなくなるか。現時点で見えているのであればもったいない。	⇒ 今回とりまとめる空間形成の考え方においては、「水と緑に囲まれた眺望空間形成」としており、建物の配置や高さ等、眺望空間確保に配慮するまちづくりを進めていきたいと考えています。
3	ブルーパス	水路沿いは、親水ネットワークとあるが、県ではどのような整備の計画を持っているのか。水質改善が早急の課題と考える。	⇒ 親水ネットワークについては、現時点で具体的な整備計画等はありませんが、整備済みの既存の遊歩道の活用と護岸の緑化を進めていくことで、緑を感じ水辺を楽しめるリゾート回廊空間形成を図っていきたくと考えています。 ⇒ ご意見のとおり、水質改善も重要だと考えていますので、住民の皆さんと一緒に水質改善を図っていきたくと考えています。
	集客ゾーン（Sゾーン）	東浜のMICEエリアの地区だけではなく、既存の住居地区、商業地区とも繋がらないとよりよいMICEエリアにはならないと考える。	⇒ ご意見のとおり、グリーンパス（タウンサイド）は、既存の商業地区への交流を促進することを目的として、交流の地域軸と位置付けて、交流を図っていきたくと考えています。
4	Mゾーン	小規模の遊園地でお客が集まり、黒字施設となるか検討が必要である。	⇒ 当該エリアには、遊園地など様々なエンターテイメント施設の中から、開発事業者の企画提案を募集し、民間活力による整備を予定しています。 ⇒ 民間による整備となりますので、営業面についても民間の知見を活かしたもので提案があるものと考えています。
	グリーンパス（タウンサイド）	元々マリントウンのイメージは、ベッドタウンであり、静かな立地環境から土地を購入したりアパートに住んでいる人が移住してきていると思われる。その中で、住居エリアと商業エリアの境界であるグリーンパス（タウンサイド）は重要である。道路を拡幅し、空気感を付けた方がいい。	⇒ ご意見のとおり、グリーンパス（タウンサイド）は、既存住居エリアと商業エリアとの緩衝地帯（バッファゾーン）としての役割も兼ねています。 ⇒ 「交流のある地域軸」としての位置付けもあり、調和を図ったまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。
5	交通アクセス	那覇空港からのアクセスは、眺望を考慮し、モノレールの乗り継ぎで、与那原-西原-坂田-首里を循環させるモノレールが必要。 計画では、シャトルバスとなっているが、大量の人員輸送では、開始前に移動することは困難である。与那原、西原、南風原、中城、宜野湾で大渋滞を起こしかねない。 大量輸送には鉄軌道しかない。MICEは鉄軌道と一体となっはじめて機能すると思う。	⇒ MICE参加者の移動利便性向上に向けた取組は重要であると考えていることから、道路整備などのハード対策とあわせて、MICE主催者とも連携し、参加者に公共交通機関の利用を呼びかけるほか、中南部地域の大型商業施設や公共駐車場等を活用したシャトルバスの運行、駐車場事前予約制の導入、アクセス時間帯を分散させるイベントを実施する等、手段や時間、経路の分散を図るソフト対策について検討していくこととしています。 ⇒ また、与那原町、西原町、中城村、北中城村で構成する「東海岸地域サンライズ推進協議会」と県とで、「大型MICEエリア振興に関する協議会」を設置しており、その中で関連事業の課題やスケジュールについて共有していくこととしています。
6	都市計画のスケジュール	都市計画の見直しの手順の説明はあったが具体的な時期の説明がなかった。周辺開発を速やかに行うためにも見直し時期は明確にすべきである。	⇒ ホテル・商業施設等の開発事業者との対話を行った上で、早期に都市計画決定ができるよう、住民合意形成を図りながら、取り組んでいきたいと考えています。